

千葉県環境審議会鳥獣部会アライグマ小委員会の開催結果（概要）

- 1 開催日時 令和3年1月13日（水）
午前10時から午前11時45分
- 2 開催場所 ホテルプラザ菜の花 榎
千葉市中央区長洲1-8-1
- 3 出席者
【委員】羽山伸一委員（委員長）、浅野玄委員、手塚幸夫委員、
役山多佳志委員、西村壽委員、清水健一委員
【県】能條自然保護課長、三井副課長（鳥獣対策）、他自然保護課職員
- 4 議案
議案第1号
第2次千葉県アライグマ防除実施計画の策定について
- 5 審議結果
上記4の議案について審議がなされ、原案に修正を加えたいうえで別添修正議案により議決された。
- 6 その他
第1号議案については、令和3年3月10日開催予定の千葉県環境審議会鳥獣部会での審議が必要であるため審議結果を報告する。
- 7 主な質疑・意見

委員 要は、現行の実施計画は失敗だったということだと思う。現行計画期間の10年間にアライグマの個体数がこれだけ増加しているのであれば、委員会をもう少し開催すべきであった。また、1次計画では目標が書かれていたが、現行計画では具体的な対策が目標に含まれていない。これでは個体数が増加した一次計画の繰り返しになってしまうのではないか。市町村から殺処分場の増設の要望があるようだが、犬や猫等のための既設の殺処分場を活用するなど、部署を横断した連携を図ってはどうか。都市部では、防除を民間業者に委託する事例が多いと思われるが、都市部における民間業者による防除の実態が把握できていないと感じる。また、都市部では保健行政や獣医が防除を担っている例もあるので、殺処分を依頼するなど、獣医師等と連携を図る必要がある。射撃場での捕獲個体のモニタリングでも、獣医師と連携することで、性別や年齢だけでなく、人獣共通感染症のモニタリングを実施できるのではないか。これはアライグマの危険性について啓蒙する上でも役立つ。最後に、捕獲数が右肩上がりが増加したことは成果ではなく、

むしろ失敗の象徴である。それにも関わらず、次期計画にロードマップがなく、具体的な目標も示されないことに強い危機感を覚える。

県 これまで小委員会の場を開催しなかったことは率直にお詫び申し上げる。第2次計画では、少なくとも中間報告は行い、必要であれば有識者の意見を伺う機会をさらに設ける。目標については、他県の計画なども参考にしながら、個体数増加や分布拡大を阻止し、農作物被害や生活環境被害を防止するという大きな目標を最初に掲げ、そのあとで目標を達成するために必要な手段を記述するという構成にしている。

委員 生息数を把握するためのノウハウは持っているか。

県 市町村から捕獲に関するデータを収集しているが、十分なデータが揃っていないため、生息数の把握には至っていない。また、先ほどの発言の殺処分に関する提案を受けて、今後、殺処分について検討していきたい。

委員 犬の回収トラックという仕組みが既にあるので、住民や市町村職員がアライグマの運搬に利用できるのではないか。

県 動物愛護の観点から、アライグマの殺処分には炭酸ガスの安楽殺処分を推奨しているところである。

委員 犬や猫の殺処分は炭酸ガスなので問題ない。獣医師会は麻酔による安楽殺処分を行うことができ、また、避妊や去勢の経験もあり、アライグマの扱いにも慣れた獣医がいると思う。獣医への委託も一つの手段である。

県 今後、獣医師との連携を図っていきたい。

委員 感染症問題を注意喚起するためのパンフレットを作成するなど、市民（特に子供）への啓蒙を検討してほしい。生息状況のモニタリングは、地域による生息密度の違いを踏まえた上で実施する必要があると思う。実際、高密度地域ではくくりわなの錯誤捕獲が増えており、生息状況の把握が難しくなっていると考えられる。アライグマの報奨金額がイノシシ等と比べて格段に低く、捕獲の際にくくりわなが高確率で破損するため、狩猟者の捕獲意欲がわからない現状は課題であると思う。モデル地区でもよいので、報奨金の上積みを検討していただきたい。

県 報償費の増額を計画に明記することは難しいが、検討していきたい。モニタリングについては市町村と協議して、適切な収集の方法を検討していきたい。パンフレットは県で既に作成しているが、計画改定を機に、内容を更新予定であるので、感染症の危険性についても盛り込みたい。

委員 パンフレットの配布は、教育委員会と連携し、学校等に配布してほしい。

委員 獣医師会を通して、動物病院に配布するのも効果があると思う。

県 野生動物の市街地出没が増えており、人獣共通感染症のリスクも増加していると考えられるので、野生動物全般について、教育委員会や獣医師と連携を図りながら、注意喚起や普及啓発を図りたい。

委員 錯誤捕獲を記録する様式が見当たらないが、問題ないか。

県 様式を再検討する。

委員 錯誤捕獲した個体の処理（放獣等）についても情報を収集できると良い。

県 報告内容については、報告元の市町村と協議しながら検討する。

委員 計画が全く実行されておらず、失敗だという印象を受ける。かつて獣医師会にアライグマの殺処分の協力依頼が来たときは、ほとんどの獣医師が協力できなかったが、最近では外来生物に関する理解も進み、獣医師が協力できる部分もあると思う。県と獣医師会、市町村が積極的に連携できれば良いと思う。

県 これまで意見交換の場を設けなかったことは改めてお詫びする。獣医師会として支援いただける余地があるということで、獣医師会に相談に伺いたい。

委員 アライグマは、シルバー人材に捕獲から処分まで委託しているが、いつまで予算がつくかはわからない。アライグマに限らず、イノシシ等の様々な獣種に対処する必要があり、ぎりぎりの状況で対応していることに御理解をいただきたい。錯誤捕獲も含めた情報については、報告が上がるよう努めたい。教育委員会を通して、環境教育の一環として子供たちへ普及啓発することも可能かと思う。

県 多様な獣種に対応する必要があり、負担のある中で業務に取り組んでいる状況は理解している。アライグマの生息域の拡大を食い止めるために、積極的に意見交換をさせていただきながら、協力、連携して対応できる方法を模索したい。

委員 中間報告や評価について、計画内に明記してほしい。その際に、全国的に見た千葉県的位置付けについて議論したい。千葉県の捕獲数は全国的にみても多いと思う。

県 中間評価を実施することを計画の中で明記する。

委員 第1次計画で不手際があったことは間違いない。次期計画では、目標設定はやや弱気だが、まずは個体数増加を止めることを目標として強調していると思う。進行管理は年次計画を立てながら、モデル地区で試行錯誤しながら防除の実績を積んでほしい。処分問題については、他県では指定病院と協力している例もあるので、獣医師会をはじめ、他部署、他機関と連携して体制を築いてほしい。その際、人獣共通感染症、ワンヘルスは重要なキーワードになり得るだろう。

委員 生態系被害の現状がほとんど把握されていないので、県として情報収集してもらいたい。そのデータが計画の評価指標にもなると思われる。

県 今後、積極的に情報収集していきたい。

委員 アライグマの増加による他の中型獣への影響も注意してほしい。委員長に伺いたいのだが、アライグマの捕獲に適した餌は何か。

委員 地域により異なるが、ネコ等の混獲を防ぐ餌が良いのではないか。餌の種類も大事だが、痕跡をしっかりと調べた上で、わなの設置場所を選ぶことも重要である。

委員 修正意見としては、中間評価を明記するという一点のみでよろしいか。ほかに修正意見はあるか。特に無いようなので、修正案については、委員長が確認するというところでよろしいか。

委員 異議なし。